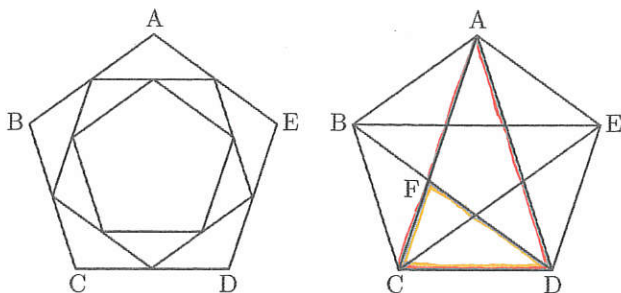




2015年 教育人間科学・生命環境（生命工以外）第3問

3 下の図のように、ABCDEを頂点とする正五角形 P_1 を考える。 P_1 の各辺の中点をとり、その中点を順に結び正五角形 P_2 をつくる。さらに、正五角形 P_2 の各辺の中点をとり、その中点を順に結び正五角形 P_3 をつくる。以下、これを繰り返す。正五角形 P_1 の一辺の長さを1、正五角形 P_n ($n = 1, 2, 3, \dots$)の一辺の長さを a_n としたとき、次の問いに答えよ。



- (1) 対角線 AC と BD の交点を F とする。△ACD と △DFC が相似であることを証明せよ。
- (2) 対角線 AC の長さを求めよ。
- (3) a_n を n の式で表せ。
- (4) 数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和を求めよ。

(1) 正五角形の1つの内角より、 $\angle BCD = 108^\circ$

また、△ABC は、 $BA = BC$ 、 $\angle ABC = 108^\circ$ の二等辺三角形より、 $\angle BCA = 36^\circ$

よって、 $\angle ACD = \angle BCD - \angle BCA = 72^\circ$ 同様にして、 $\angle ADC = 72^\circ \therefore \angle CAD = 36^\circ$

図形の対称性より、 $\angle FDC = \angle CDE - \angle BDE = 108^\circ - 72^\circ = 36^\circ \therefore \angle DFC = 72^\circ$

$\therefore \angle ACD = \angle DFC = 72^\circ$ 、 $\angle CAD = \angle FDC = 36^\circ$

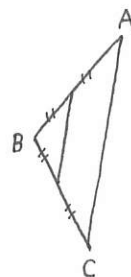
\therefore 2つの角がそれぞれ等しいことより、△ACD ∽ △DFC ■

(2) (1)より、 $AC : CD = DF : FC$

ここで、図形の対称性より、 $AF = DF = CD = 1$ 、 $\therefore FC = AC - 1$

$\therefore AC : 1 = 1 : AC - 1$

$\therefore AC^2 - AC - 1 = 0 \therefore AC > 0$ より、 $AC = \frac{1+\sqrt{5}}{2}$



(3) 右図より、 $a_2 = \frac{1}{2} \cdot \frac{1+\sqrt{5}}{2} = \frac{1+\sqrt{5}}{4} \therefore a_{n+1} = \frac{1+\sqrt{5}}{4} a_n \therefore a_n = \left(\frac{1+\sqrt{5}}{4}\right)^{n-1}$

(4) $\sum_{k=1}^n \left(\frac{1+\sqrt{5}}{4}\right)^{k-1} = \frac{1 - \left(\frac{1+\sqrt{5}}{4}\right)^n}{1 - \frac{1+\sqrt{5}}{4}}$
 $= \frac{1 - \left(\frac{1+\sqrt{5}}{4}\right)^n}{\frac{3-\sqrt{5}}{4}}$